



日下田 實 (マナスル登頂隊員)



石川 直樹 (写真家)

■ 映画「マナスルに立つ」(短縮版)

■ 公開座談会

- 萩原浩司 座長 (「山の日」事業委員会委員長、山と溪谷社主幹)
傘木 靖 「集団登山・学校登山の立場から」(長野県山岳総合センター)
村越 真 「こどもがたくましく育つために」(静岡大学大学院教育学領域教授)
花谷泰広 「最先端のクライミング事情」(山岳ガイド)
小林千穂 「多様化する女性の山の楽しみ方」(山岳ライター)

■ 展示

マナスル登山に関する日本山岳会所蔵品展示
「山の日」関連の展示
ネパール大地震報告 ほか

7月10日(日)10時15分開演 (開場9時45分)

JICA 市ヶ谷

入場無料 ★キッズルームを開設します。

「マナスル」から「山の日」まで60年、
いま未来に伝えること。

申込み・詳細

<http://www.jac.or.jp/mana-yama/m.html>



- 主催 公益社団法人 日本山岳会
○後援 環境省、スポーツ庁、在日ネパール大使館、JICA 地球ひろば、株式会社山と溪谷社
○協力 一般財団法人全国山の日協議会、ランタンプラン、山岳6団体ネパール大地震救援募金

1956（昭和31）年5月9日、日本で初めてヒマラヤの高峰8000m峰の登頂を果たしたのは日本山岳会マナスル登山隊であった。マナスル登山隊の快挙に日本中が歓喜に沸き、その後のヒマラヤ登山ブームの幕開けとなった。隊員たちのマナスルでの登山経験は、その後の南極観測事業や極寒での生活技術への応用などにつながり、さらには今日の宇宙計画へとつながっているとも言える。今年、マナスル初登頂から60年、さらに国民の祝日「山の日」の施行を迎える記念すべき年である。マナスル初登頂が日本にもたらした意義を振り返りながら、年を経て、登山だけでなく幅広い公益目的を持つ「山の日」制定運動を提唱し、活動の輪を大きく広げた足取りを通して、われわれは、未来に向けて何ができるか、何をなすべきかを考えたい。

（公益社団法人日本山岳会）

PROFILE



講演

日下田 實（ひげた・みのる）
1930年栃木県生まれ。早稲田大学山岳部OB。53年に南米アコンカグアに登頂。54年マナスル登山隊第2次隊に参加し、56年の第3次隊では最年少隊員として参加、5月11日に加藤喜一郎さんとともに頂上に立った（今西壽雄、ギャルソン・ノルブは5月9日）。56～58年毎日新聞運動部に勤務。日本山岳会会員。



講演

石川 直樹（いしかわ・なおき）
1977年東京生まれ。高校2年生のときにインド・ネパールへ一人旅に出て以来、2000年に北極から南極まで人力で踏破する Pole to Pole プロジェクトに参加。2001年に七大陸最高峰登頂に成功。世界を歩き作品を発表している。その関心の対象は、人類学、民俗学など、幅広い領域に及ぶ。日本山岳会会員。



座長

萩原 浩司（はぎわら・ひろし）
1960年栃木県生まれ。山と溪谷社の山岳図書出版部部長兼『ROCK&SNOW』、『ヤマケイ文庫』編集長。ピオレドール賞審査委員、ピオレドール・アジア審査委員長などを歴任。NHK-BS1『実践！にっぽん百名山』に出演中。青山学院大学山岳部OB会前会長。日本山岳会「山の日」事業委員会委員長。

■展示会1（展示場、セミナールーム）

①マナスル登山に関する日本山岳会所蔵品展示、②日本山岳会による登山の歴史、③マナスル登山時代の装備の展示、④自然保護や高尾の森づくりの会の活動、⑤最新の装備、未来の装備紹介展示

■展示会2（セミナールーム）

「山の日」関連の展示

■展示会3（展示場）

ネパール大地震の実態と復興支援（主にランタン谷）



「子どもがたくましく育つために」

村越 真（むらこし・しん）
1960年生まれ。静岡大学教授、同共同大学院専攻長、日本オリエンテーリング協会副会長。オリエンテーリング日本選手権15連覇の実績を踏まえ、多発する道迷い遭難減少のための情報提供や講習を行う。著書に『子供たちには危険がいっぱい』、『山岳読図大全』（ともに山と溪谷社）、「山のリスクと向き合うために」（東京新聞）ほか多数。



「最先端のクライミング事情」

花谷 泰広（はなたに・やすひろ）
山岳ガイド。20歳のときネパール・ヒマラヤのラトナチュリ峰（7035m）に登頂。2012年にネパール・ヒマラヤのキャシャル峰（6770m）南ピラーの初登攀に成功し、ピオレドール賞を受賞。ルート等をオーダーメイドで設計できる山岳ガイド「First Ascent」主宰。信州大学学士山岳会所属。



「集団登山・学校登山の立場から」

傘木 靖（かさぎ・やすし）
1959年長野県生まれ。20年以上の教員生活を経て、現在は長野県山岳総合センター職員。登山講習の企画・運営を担当するとともに、学校集団登山に参加する児童・生徒の事前学習をサポートしたり、教職員向けの研修会の講師を務めたりしている。長野県山岳協会ジュニア委員長。飯田山岳会所属。



「多様化する女性の山の楽しみ方」

小林 千穂（こばやし・ちほ）
編集者・山岳ライター。澗沢ヒュッテ従業員、山岳写真家・内田修氏のアシスタントを経て、編集プロダクションに入社。現在はフリーの編集、ライター。BSプレミアム「にっぽん百名山」（穂高岳）、NHK総合「さらさらサラダ」（中部エリア）に出演。著書に『DVD登山ガイド穂高』（山と溪谷社）、『失敗しない山登り』（講談社）ほか。

ACCESS

